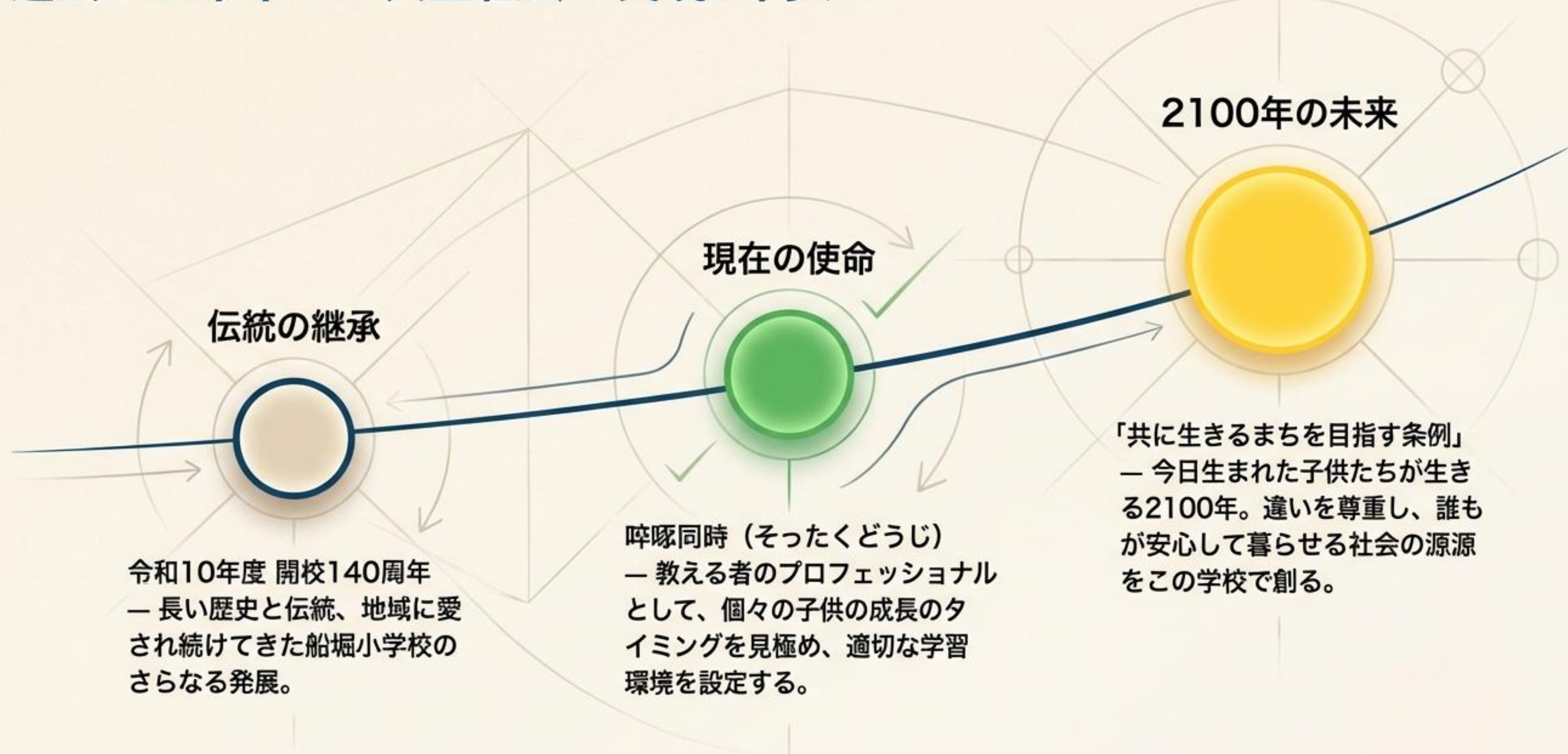


地域と共に歩む学校を目指して

# 令和8年度 江戸川区立船堀小学校 学校経営方針

江戸川区立船堀小学校長 山下 靖雄

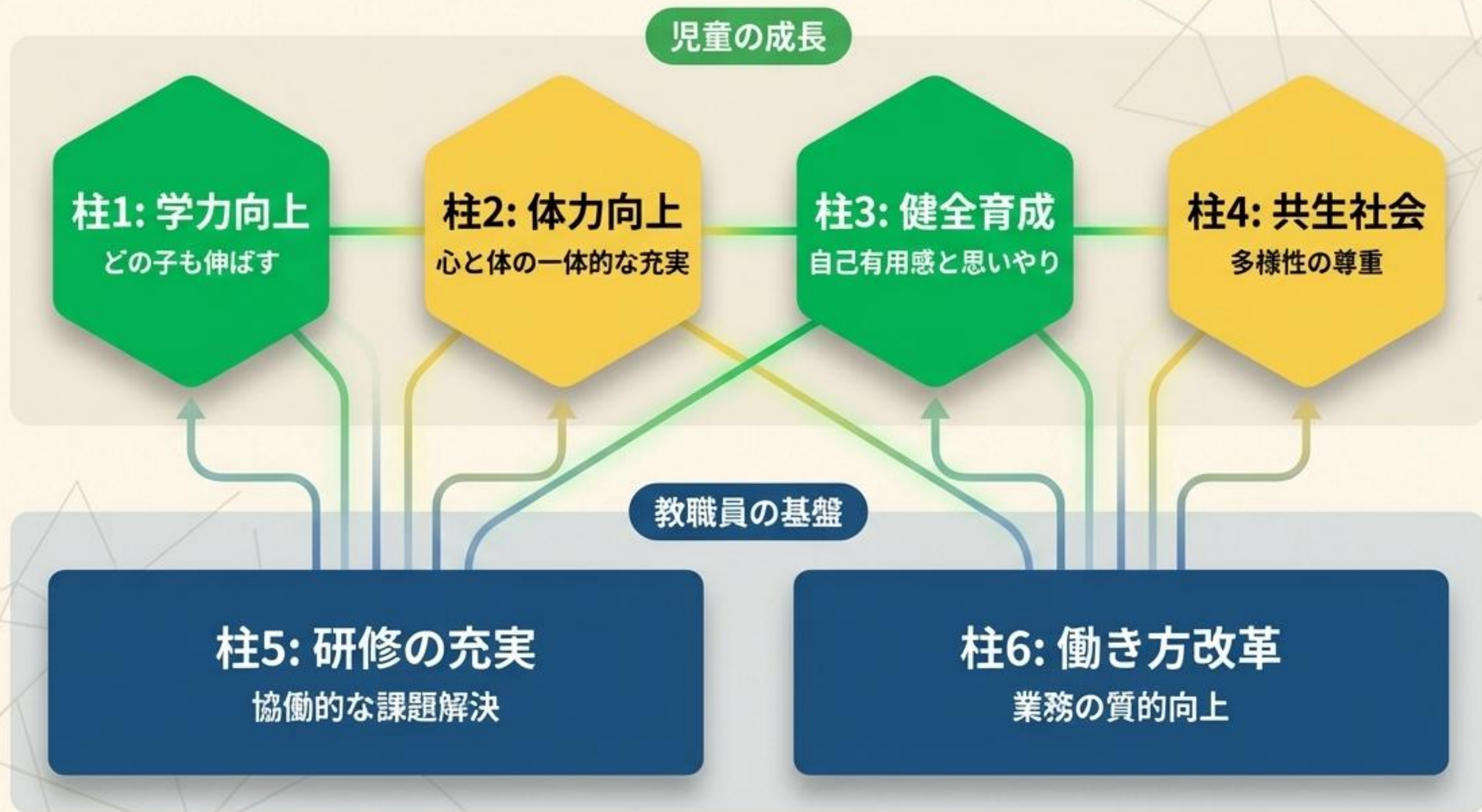
# 過去から未来へ：共生社会の実現に向けて



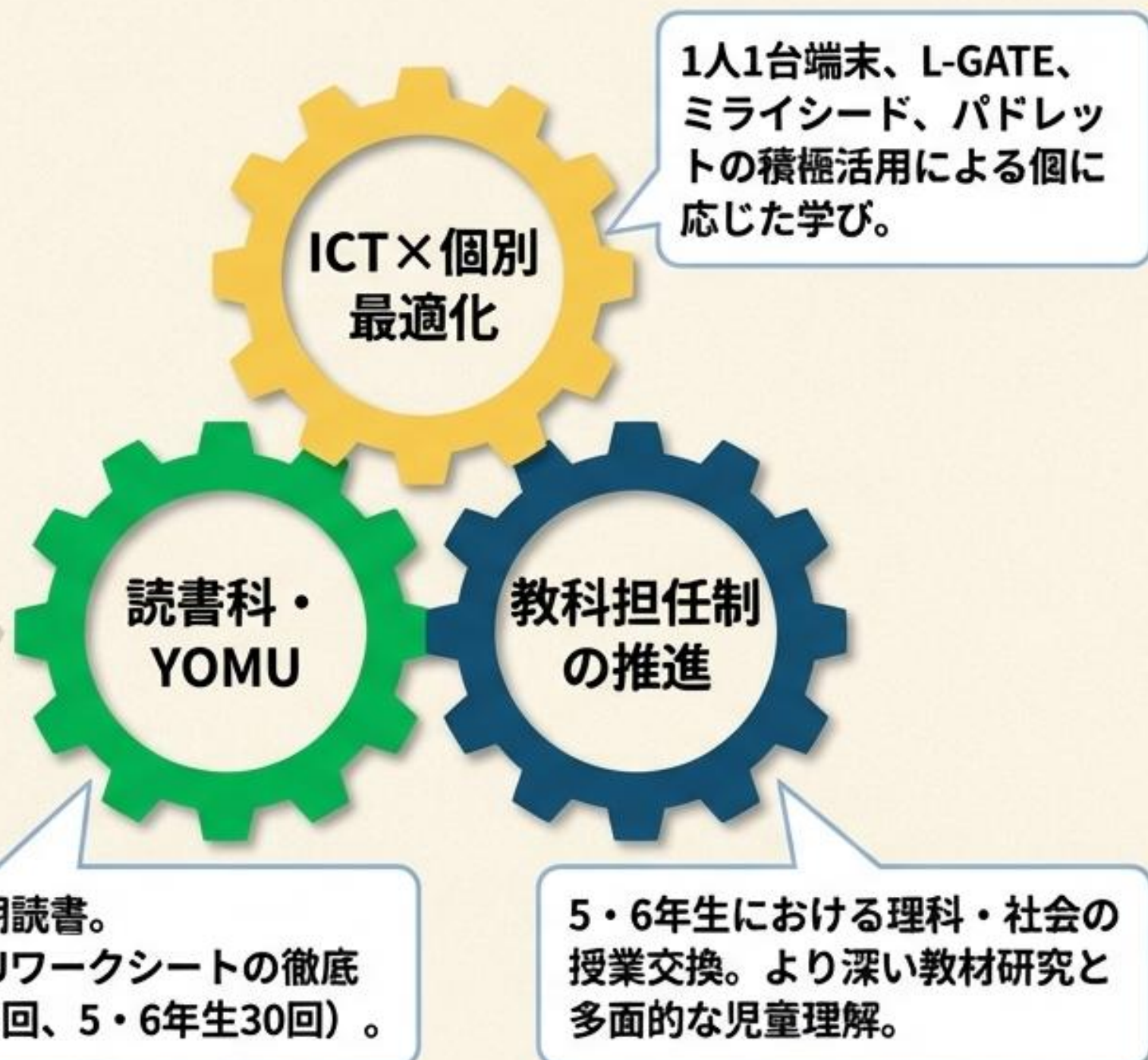
# 目指す児童像：教育のコンパス



# 学校経営の6つの柱：成長のエコシステム



# 柱1：学力向上 — 主体的・協働的な学びの実現



## 数値目標

江戸川区学力調査 全国平均との差

3年生	国語	+5p	算数	+5p
4年生	国語	+5p	算数	+5p
5年生	国語	+5p	算数	+7p
6年生	国語	+5p	算数	+9p

東京ベーシックドリル  
(1・2年)

C・D層 2%以下

# 探究学習ハイライト：自助・共助でミライを生きる船堀の子

江戸川区研究指定校としての「これからの防災教育」

## The Disaster Inquiry Cycle

単なる知識伝達からの脱却。  
東京都ファーストカスタマー・ア  
ライアンス制度を活用し、(機)ミエタ  
と連携したカリキュラム開発。

Step 1: Input  
(知識の獲得)

Step 2:  
Process  
(探究と協働)

Step 3: Output  
(社会への提言)

1人1台端末を活用した情  
報収集・整理。  
児童自らが「自分事」として  
防災の最適解を思考・探究。

獲得した知識と解決策を保護  
者・地域へアウトプット。  
地域と連携した新しい防災の  
在り方を提言。

## 柱2：体力向上 — 「やらされる」から「やりたい」運動遊びへ

ストレッチタイムの継続と正確な実施。  
Padletを活用した体育学習での動き  
の共有・振り返り。

目標：体力合計点の全国  
平均以上を全学年で達成。



船スポタイム —  
年間35回以上、15分間を活  
用した全校運動遊び。  
プレイリーダーの育成。

なわ跳びチャレンジウィーク —  
各学期2週間程度（年間6回）。  
集団でのパフォーマンスへの挑戦。

# 柱3：健全育成 — 思いやりと自己有用感の調和

## 他者を思いやる心

100%のいじめ問題解決率。  
年3回の重点調査とL-GATEによる  
毎日の心の記録・観察。

## 自己有用感

集団へ貢献できる場面の設定。  
5年生での「SOSの出し方」授  
業（ストレス対処法）。

## 美しい言語環境

- ・ TPOに応じた言葉の選択と敬語の徹底。
- ・ 人権を大切にし、呼び捨て・あだ名・愛称を禁止（原則「さん」呼称）。

徹底

# 不登校支援マトリクス：ひまわりルームの運用プロトコル

児童の状態 (Group)	校内での対応 (In-School)	連携・支援体制 (External/Community)
Group A: 所属教室で授業に参加できるが個別配慮が必要	担任の合理的配慮、学年アシスタント支援	特別支援専門員、巡回心理士
Group B: 教室で過ごせるが短時間のクールダウンが必要	各階でん・保健室横エンカレレジットルームの活用	SC、やまぶき学級での指導
Group C: 不登校傾向（教室に入りにくい）	オンライン授業参加、ひまわりルームでの個別指導	ステップサポーター
Group D: 家から出ることが困難	定期的な見守り、オンライン授業参加	SSW、児童相談所、共育プラザ

## 柱4：共生社会 — 「ちがい」を認め、支え合う人材の育成



### 船堀小ガーデン（実践の場）

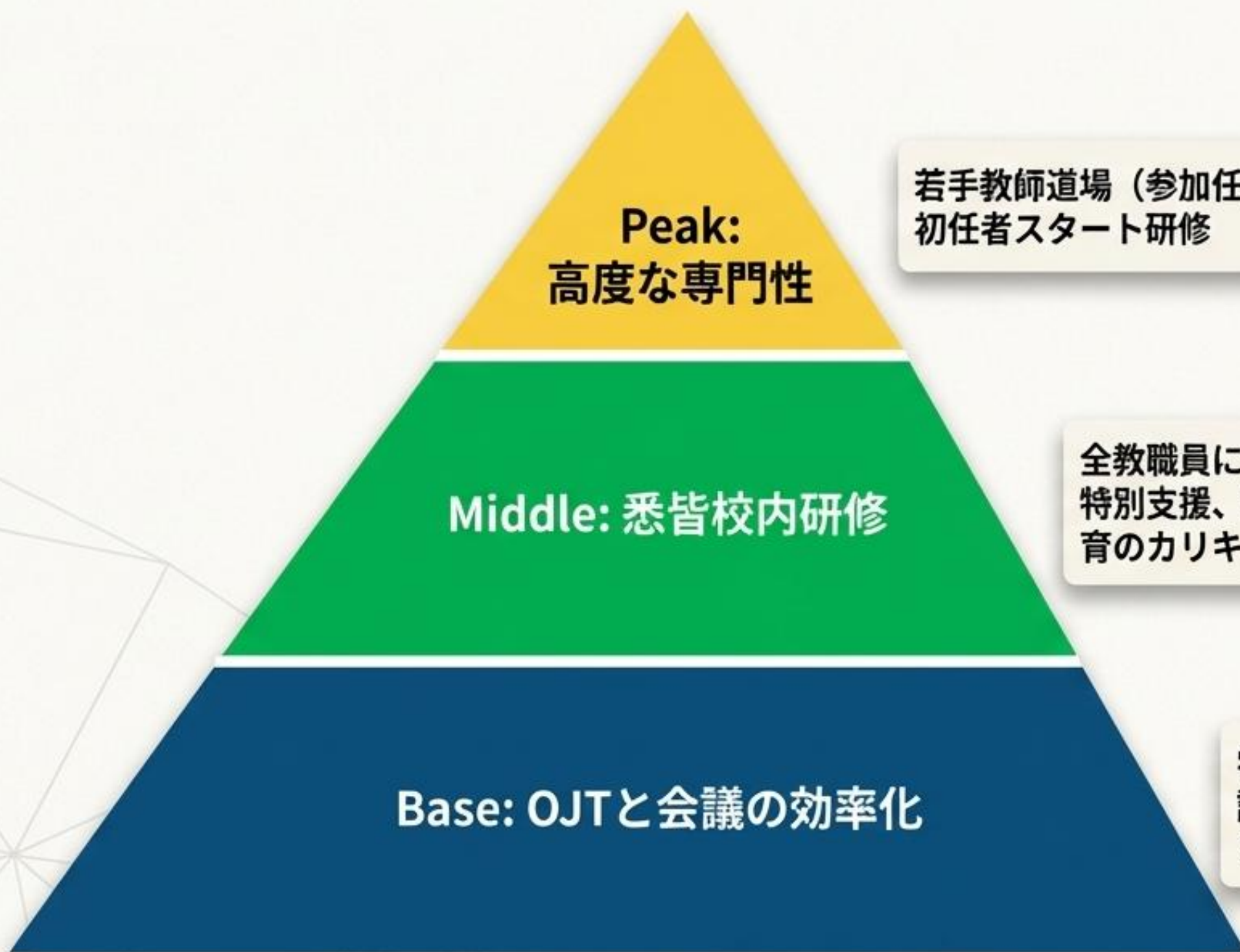
- ボランティアマインドの育成を目的とした年間活動。
- 船堀街道沿いの花壇化を通じた保護者・地域ボランティアとの一体化。
- 「人権の花運動」への全校参加。



### 交流学习と研修（理解の場）

- 特別支援学級（やまぶき学級）と通常学級の交流学习の推進（互いにWin-Winの成果を）。
- 教員の交流研修：通常学級教員全員が特別支援学級にて1日研修を実施。

## 柱5：研修の充実 — 教師としての魅力を磨く



**Peak:**  
高度な専門性

若手教師道場（参加任意の研修・校長直接指導）/  
初任者スタート研修

**Middle:** 悉皆校内研修

全教職員による協働的な課題解決。  
特別支援、読書科、生活指導、ICT、防災教育の  
カリキュラム開発。

**Base:** OJTと会議の効率化

学年会・各種会議は実務的OJTの場。会  
議時間は45分を上限とし、事前のアジェ  
ンダ整理と文書起案を徹底。

## 柱6：働き方改革 — 業務の質的向上とQOLの確保

月45時間以内の全員達成。  
超過者には業務推進改善計画を作成。  
出退勤システムの自己管理徹底。

時間外勤務の厳格化

教員でなければできない  
教育業務に専念し、子  
供の学力向上へ繋げる。

サポート人材の最大活用

スクールサポートスタッフ(SSS)の  
積極活用。  
1~3年生への学年アシスタント配置。

一斉退勤日の設定

学期ごとに指定し、17時以降の残  
留を禁止。  
休日の持ち帰り仕事を防ぐための  
時間内業務遂行能力の向上。

# デジタルシフト：ペーパーレス化による業務改善とSDGs

## 従来 (Analog Burden)



膨大な印刷物、紙ベースのアンケート、長文の所見作成。

Microsoft Forms /  
L-GATE /  
タブレット端末

## 令和8年度 (Digital Efficiency)



**あゆみ（成績表）の抜本的改定:**  
1・2学期の所見欄表記を省略（個人面談にて直接伝達）。観点別評価のみに絞り、負担を劇的軽減。



**校内業務・家庭連絡のクラウド化:**  
行事の職員反省やアンケートの完全データ化。児童向けプリントの端末配信。



**SDGsへの貢献:**  
紙資源使用量の維持・削減と裏紙再利用の徹底。

# 学校文化としてのPDCAサイクル



# 全ては、一人一人の子供が輝くために



教育は未来への投資。私たちの行いが、子供たちの2100年の世界を創る。